

# 中学校道徳科内容項目「よりよく生きる喜び」を扱った 道徳教材の指導の在り方

－「二人の弟子」の授業実践から－

しのはら たかお  
篠原 孝雄

**抄録：** 修学旅行とのカリキュラム・マネジメントを図り、内容項目 D-(22)「よりよく生きる喜び」において、誰に対しても人間としてのよさを見いだしていこうとする態度を育てるべく、道徳科授業を設計した。授業で扱う教材「二人の弟子」は長編のため、中学生が理解し、深めていくには難しい内容であるが、登場人物の心境やその動機を探っていくことで、本授業のねらいに迫っていった。

一方、テーマが壮大であり、ねらいに迫るための発問づくりが困難であるため、内容項目 D-(22) で道徳科授業を行うことは、現場教員から忌避されがちである。そこで、本稿では D-(22) がテーマである教材を扱った授業実践について報告するとともに、D-(22) をテーマにした道徳科授業の実践の敷居を低くするための意識の持ち方について提案を行った。

**キーワード：** 道徳科授業、よりよく生きる喜び、D-(22)、二人の弟子

## 1 はじめに

### 1-1 研究動機

今日、テーマパークや観光地を巡礼する修学旅行が数多く行われている中、本校では生徒一人ひとりが自己の内面に向き合うとともに、互いに率直な意見を交わし合い、意思を表明する活動である夕礼（せきれい）の実践を通じて、よりよい学級集団を育成することを修学旅行の目的の中核に位置付け、これまで約半世紀の間、大自然という非日常を提供してくれる乗鞍高原で修学旅行を実施している。修学旅行中、毎晩行われた生徒の自治的な話合いの場である夕礼を通して、本校の中学3年生は、団結するためには、「互いに信頼し合うこと」が大事であるという結論に達した。しかし、修学旅行が終わっても、1・2年時に構築した人間関係に固執し、新しい人間関係を築くことには依然消極的であった。その理由の1つとしては、クラスメイトの悪いところばかりに目がいき、内容項目 D-(22)「人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間のよさやすばらしさを見いだしていこうとする態度」が育っていないことが考えられた。

一方、テーマが壮大であり、ねらいに迫るための発問づくりが困難であるため、内容項目 D-(22) で道徳科授業を行うことは、現場教員から忌避されがちである。そこで、本稿では D-(22) がテーマである教材を扱った授業実践について報告するとともに、D-(22) をテーマにした道徳科授業の実践の敷居を低くするための意識の持ち方について提案したい。

### 1-2 研究の目的

上述の生徒の実態を踏まえ、内容項目 D-(22)「よりよく生きる喜び」において、人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見いださせるべく、「ねらいに迫る発問づくり」と「道徳的価値の理解を深められる板書」の2つの手立てで道徳科の授業を設計する。そして、道徳科の時間における、内容項目 D-(22)「よりよく生きる喜び」を扱った教材の指導の在り方について、「生徒のワークシートの記述内容を分析」することで考察していきたい。

また、指導にあたっては、道徳科の時間を要としながらも、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を計画するために、総合的な学習の時間、特別活動とのカリキュラム・マネジメントを図り、「よりよく生きること」についての考えを深めることができるようにする。

## 2 研究内容

### 2-1 研究方法

#### 2-1-1 ねらいにせまる発問づくり

道徳科の時間が、国語科のような詳細な読み（読解）にならないように次の3つの発問でねらいに迫る。1つ目の発問は、主人公が道徳的に変容する以前の場面における主人公の「道徳的問題や課題」を明らかにする発問（before 発問）である。2つ目は、主人公が道徳的に変容する場面における主人公の「道徳的な気づき」を明らかにする中心発問である。そして、3つ目は、本時における「道徳的価値」をおさえるテーマ発問である。これら3つの発問に精選して、内容項目 D-(22)「よりよく生きる喜び」を深める。

#### 2-1-2 道徳的価値の理解を深められる板書

生徒たちが、視覚的に自らの考えを整理し、道徳的価値の理解を深めたり、物事を多面的・多角的に考えたりできる道具が板書である。板書を構成する時は、主人公の考えの変容などを対比し、心の動きが分かる構造的なものにしていく。そうすることで、1時間のねらいである道徳的価値が明確になり、生徒たちはその価値についての理解を深めやすくなったり、自分の考えと比べて、様々な視点から物事を考えやすくなったりする。また、多様な意見が出る場合は、似たような意見をまとめたり、対立する意見を際立たせたりするなど、思考の流れを視覚的に整理する。

#### 2-1-3 生徒のワークシートの記述内容を分析

生徒たちに、道徳科の時間において考えたことや感じたことをワークシートに書かせることによって、ねらいである内容項目 D-(22)「よりよく生きる喜び」に迫れたのかという生徒一人一人の学習状況を把握するとともに、生徒のワークシートの記述内容を中学校学習指導要領解説をもとに内容項目ごとに分類し、分析することで、指導の目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料とする。

月 日 道徳 「二人の弟子」 3年〔 〕組〔 〕番名前〔 〕						
◎ 今日の授業で考えたことや感じたことを書こう。						
1. 教材はよかったか。	大変←	5	4	3	2	1 →全く
2. 共感や感動をしたか。	大変←	5	4	3	2	1 →全く
3. 新しい発見があったか。	大変←	5	4	3	2	1 →全く
4. 自分を振り返り、考えることはできたか。	大変←	5	4	3	2	1 →全く
5. 授業全体を振り返ってよかったか。	大変←	5	4	3	2	1 →全く

図1 使用するワークシート

#### 2-1-4 道徳的価値の理解を深められるカリキュラム・マネジメント

道徳科の時間を軸に、総合的な学習の時間、特別活動などとのカリキュラム・マネジメントを図り、1年間を通した総合的な道徳教育を計画する。

### 3 「二人の弟子」の授業について

#### 3-1 対象者

大阪教育大学附属天王寺中学校 74 期生第 3 学年 144 名（男子 72 名、女子 72 名）

#### 3-2 実施日と学級

令和 4 年 10 月 28 日（金）C 組、11 月 4 日（金）A 組、11 月 8 日（火）B 組、11 月 12 日（土）D 組

#### 3-3 ねらいとする価値について

ありのままの人間は、決して完全なものではなく、誰の心の中にも弱さや醜さがあり、それと同時に、人間はその弱さや醜さを克服したいと願う心ももっている。つまり、人間は、総体として弱さはもっているが、それを乗り越え、次に向かっていくところにすばらしさがある。また、「気高く生きようとする心」は、自己の良心に従って人間性に外れずに生きようとする心であり、その気高さは、自分の義務を遂行できたとき、他者との絆を守れたときや本来の自己を取り戻せたときに喜びとして感じる。このことは、自己の弱さや醜さに向き合うことがなければ、気付くことのできない自己の強さであり、気高さである。つまり、人間の強さと気高さは、弱さと醜さと決して離れているわけではなく表裏一体の関係であるといえる。道信の生き方から、「人間の心には弱さや醜さがあるが、同時に人間はその弱さや醜さを克服したいと願う心ももっている」ということを学び、だからこそ人間のよさやすばらしさを見いだしていこうとする態度を育てたい。

#### 3-4 教材「二人の弟子」について

「二人の弟子」は、長編の内容であり、中心発問の「白ゆり」の意味への理解が課題となる教材であるといえる。そこで、中心発問に迫るまでに「白ゆり」の意味が理解しやすくなるような発問を用意したい。仏教の修行に対し真面目に励んできた智行と白拍子を追いかけ出奔した道信という性格や生き方が異なる二人が、ともに自己の弱さや醜さに苦しみ、それを乗り越えていくことで自己の強さや気高さに気づき、よりよく生きていこうとする姿が描かれている。自己を見つめることによって己の弱点に気付く克服しようとする二人の共通点を捉えつつ、道信、智行それぞれの心境やその動機を探っていくことで、深くねらいに迫ることのできる教材である。

#### 3-5 本時のねらい

月光に輝く白ゆりを見て涙する主人公の心の変化を通して、人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、よりよく生きていこうとする道徳的実践意欲を養う。

#### 3-6 本時の展開

時間	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	教材の確認。 先日京都へ遠足に行ったとき、いろいろなお寺を巡ったと思います。今日の道徳の授業は、そのお寺のお坊さんのお話です。	・教材への方向づけをする。
展開	1. 教材「二人の弟子」の範読を聞く。  2. 内容を理解する。 *何があったの？ ・道信が白拍子を追いかけ本山を出奔した。 ・道信は女房を病で亡くし、死のうと思った。 ・道信はフキノトウを見て、もう一度修行をやり直したいと決意し、寺にもどってきた。 ・道信が寺にもどることを智行は許せない。 ・道信は寺にもどることを上人に許された。	・心に染み入るように範読をする。  ・道信の人柄をおさえる。 ・智行の人柄をおさえる。

3. 道信のことを許容できない智行の気持ちを確認する。

発問①

上人が道信を許したとき、智行が怒りを覚えたのはなぜだろう。

(自分に対して)

- ・上人の決断が、自分の考えと違うから。
- ・道信より頑張って勉強してきたから。
- ・上人の言う通りに修行してきたから。
- ・自分はずいぶん修行に耐えてきたから。
- ・自分は何も間違っただけをしていないから。
- ・自分の生き方を否定されたようだから。

(道信に対して)

- ・道信は修行から逃げているから。
- ・道信はただ好きなことをしてきただけだから。
- ・道信は悪いことをしてきたから。
- ・道信には修行する資格がないから。

(上人に対して)

- ・上人は道信に甘い。
- ・上人は自分（智行）には厳しいから。
- ・上人の判断は理解できないから。

(人として)

- ・人は裏切ってはいけないから。
- ・人は脱落したものには厳しい態度で臨むべきだから。
- ・他の弟子に示しがつかないから。

発問①の補助発問

\* 上人は、なぜ、道信を許したのだろうか？

- ・大切な弟子だから。
- ・たくさんのことを学んできたから。

➡ 【追発問】

道信はどんなことを学んできたの？

- ・人の気持ち。
- ・人の痛み。
- ・命の尊さ。
- ・道信がもう出奔することはないと信じているから。
- ・道信は出奔したことを反省しているから。

4. 智行の道徳的課題について考える。

発問②の先行発問

上人は、智行に対して、どんなことを望んでいるのか。

(智行に対して)

- ・自分自身と向き合うこと。

➡ 【追発問】

智行はどんな自分と向き合えていないのか。

- ・頭でっかちな自分。
- ・醜い自分。
- ・独りよがりな自分。
- ・人の気持ちのわからない自分。
- ・いろんな経験を積むこと。
- ・謙虚になること。
- ・人の気持ちのわかる人になること。
- ・苦しんでいる人の味方になること。

\* 道信に対して上人の言葉

「お前は本当にたくさんのことを学んできたのだな」

\* 智行に対して上人の言葉

「人はみな自分自身と向き合って生きていかねばならないのだ」

	<p>5. 智行の気づきについて考える。 発問②</p> <p>智行は白ゆりを見て、どんなことに気づき涙を流したのだろう。</p> <p>(自分に対して)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・弱さ ・冷たさ ・傲慢さ ・醜さ ・心の狭さ</li> </ul> <p>(道信に対して)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道信への嫉妬。 ・道信の健気さ。</li> <li>・道信が苦しみに負けず、懸命に生きていること。</li> <li>・道信がフキノトウを見たときの気持ち。</li> </ul> <p>(上人に対して)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上人の弟子を思う気持ち。</li> </ul> <p>(人として)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人の優しさやあたたかさ。</li> <li>・僧としての使命。</li> <li>・苦しんでいる人に手を差し伸べることの大切さ。</li> <li>・人間の素晴らしさや美しさ。</li> </ul>	
<p>終末</p>	<p>本時をふり返りながら感想を書き、発表する。</p> <p>今日の授業で考えたことや感じたことを書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人の気持ちの分かる人になりたい。</li> <li>・自分の弱さや醜さと向き合って生きていきたい。</li> <li>・人は誰も弱さや醜さをもっているが、それらを克服しようと頑張っていることを知った。</li> <li>・人は弱さや醜さを克服しようとする強さをもっていることを信じていきたい。</li> </ul>	

### 3-7 板書計画

#### 二人の弟子

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px; text-align: center;"><b>道信</b></div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・孤児</li> <li>・本山を出奔</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px; text-align: center;"><b>上人</b></div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px; text-align: center;"><b>智行</b></div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名家の三男</li> <li>・学問一辺倒な人</li> <li>・立派な僧侶</li> </ul>
---	---	--

**Q.上人が道信を許したとき、智行が怒りを覚えたのはなぜだろう。**

- ・道信は修行から逃げているから。 ・他の弟子に示しがつかないから。
- ・上人は道信に甘い。

お前は本当にたくさんさんのことを学んできたのだな

**上人**

人はみな自分自身と向き合って生きていかねばならないのだ。

**Q.上人は道信をどうして許したのか？**

- ・大切な弟子だから。
- ・たくさんさんのことを学んできたから。
- ・道信は出奔したことを反省しているから。

**Q.上人は智行にどんなことを望んでいるの？**

- ・自分自身と向き合うこと。
- ・いろいろな経験を積むこと。
- ・謙虚になること。

- ・頭でっかちな自分。
- ・醜い自分。
- ・独りよがりな自分。
- ・人の気持ちのわからない自分。

**Q.智行は白ゆりを見て、どんなことに気づき涙を流したのだろう。**

- ・弱さ ・冷たさ ・傲慢さ ・醜さ ・心の狭さ
- ・道信への嫉妬。 ・道信の健気さ。
- ・上人の弟子を思う気持ち。



**Q.今日の授業で考えたことや感じたことを書こう。**

- ・人の気持ちの分かる人になりたい。
- ・自分の弱さや醜さと向き合って生きていきたい。
- ・人は誰も弱さや醜さをもっているが、それらを克服しようと頑張っていることを知った。

## 4 授業の考察

### 4-1 ねらいにせまる発問づくり

内容項目 D-(22)「よりよく生きる喜び」に迫るために、次の点に留意して発問を準備した。まず一点目、生活経験が乏しい中学生にとって、道信のどん底の苦しみからはい上がってくる強さへの共感は難しく、ど

ちらかという共感しやすいのは智行であると考え。そのため、生徒から出てくる意見として予想されるのは、「智行は心が狭い」などである。つまり、内容項目 B-(9)「相互理解、寛容」には気づきやすいが、内容項目 D-(22) の中でも特に「人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心がある」ことには気づきにくい。そこで、上人の「お前は本当にたくさんのことを学んできたのだな」という言葉を挙げながら、発問①の補助発問を投げかけることによって、道信の苦しみや強さに共感させるようにした。

また、この教材は、「道信と智行」、「フキノトウと白ゆり」のように対照的な構造になっている。それにより、道信と智行どちらにも人間としてのよさやすばらしさがあるにも関わらず、道信は正しくて、智行は間違っているという浅い解釈を引き起こす可能性もある。そこで、上人の「人はみな自分自身と向き合って生きていかねばならないのだ」という言葉を挙げながら、発問②の先行発問を投げかけることによって、智行も道信のように「自分の弱さや醜さと向き合い、それらを克服しようとする強さをもっていることに気づかせたいと考えた。

以上のことを踏まえて発問づくりを行ったが、生徒の感想（表 ）からは、内容項目 B-(9)「相互理解、寛容」に関する記述が多く見られ、本時のねらいに迫り切れなかったという課題は残る。これまでの発問の変遷を示す（表 1）。

表 1 発問の変遷

8/29(月) 事前研究①	9/20(火) 事前研究②	9/28(月) 事前研究③	10/13(木) 事前研究④	10/15(土) 模擬授業
<p>[before 発問]</p> <p>◎道信が「もう一度修行をやり直したい」と言った時、智行はどう思った。</p> <p>◎上人様が道信を許されたのを見た時、智行はどう思った。</p>	<p>[before 発問]</p> <p>◎道信が「もう一度修行をやり直したい」と言った時、智行はどう思った。</p> <p>◎上人様が道信を許されたのを見た時、智行はどう思った。</p>	<p>[before 発問]</p> <p>◎上人が道信を許した時、智行が怒りを覚えたのはなぜだろう。</p> <p>◎あなたに悩みごとがあったら、智行寺と道信寺のどちらに相談に行きますか。</p>	<p>[before 発問]</p> <p>◎上人が道信を許した時、智行が怒りを覚えたのはなぜだろう。</p> <p>◎智行に上人はどんなことを望んでいるのか。</p>	<p>[before 発問]</p> <p>◎上人が道信を許した時、智行が怒りを覚えたのはなぜだろう。</p> <p>[補助発問]</p> <p>◎上人は、なぜ道信を許したのだろうか。</p> <p>◎上人は智行に対して、どんなことを望んでいるのか。</p> <p>[追発問]</p> <p>◎智行はどんな自分と向き合っていないのか。</p>
<p>[中心発問]</p> <p>◎月光に輝く白ゆりを見て涙を流した智行は、どんなことに気づいたのだろうか。</p> <p>[補助発問]</p> <p>◎人は皆、自分自身と向き合って生きていかねばならない」上人様のつぶやきから、上人は智行にどんな自分と向き合って欲しかったか？</p>	<p>[中心発問]</p> <p>◎人は皆、自分自身と向き合って生きていかねばならない」上人様のつぶやきから、上人は智行にどんな自分と向き合って欲しいのか？</p> <p>[補助発問]</p> <p>◎智行にあって、道信にないものは？道信にあって、智行にないものは？</p> <p>◎あなたに悩みごとがあったら、どちら</p>	<p>[中心発問]</p> <p>◎智行は白ゆりを見て、どんなことに気づき涙を流したのだろうか。</p> <p>[補助発問]</p> <p>◎あなたが智行の立場だったら、道信を許すことができますか。</p>	<p>[中心発問]</p> <p>◎智行は白ゆりを見て、どんなことに気づき涙を流したのだろうか。</p> <p>[追発問]</p> <p>◎智行はどんな自分と向き合っていないのか。</p>	<p>[中心発問]</p> <p>◎智行は白ゆりを見て、どんなことに気づき涙を流したのだろうか。</p>

#### 4-2 道徳的価値の理解を深められる板書

本時の実践では、道信と智行を左右に配置して板書し、生徒がそれぞれの人柄や心情を対比しながら考えられるようにした（図2）。また、黒板の真ん中には、上人が道信と智行それぞれに言った言葉を提示し、道信には備わっているが、智行には不足しているものを生徒が表出できるようにした。そして、智行の心情を中心に考えながら、白ゆりを見て気づいたことや道信に共感できるようにキーワードとなる言葉については色を変えて書くなどして工夫した。なお、板書をする時間をできるだけ短縮するために、あらかじめ発問を書いたカードを用意しておくようにした。

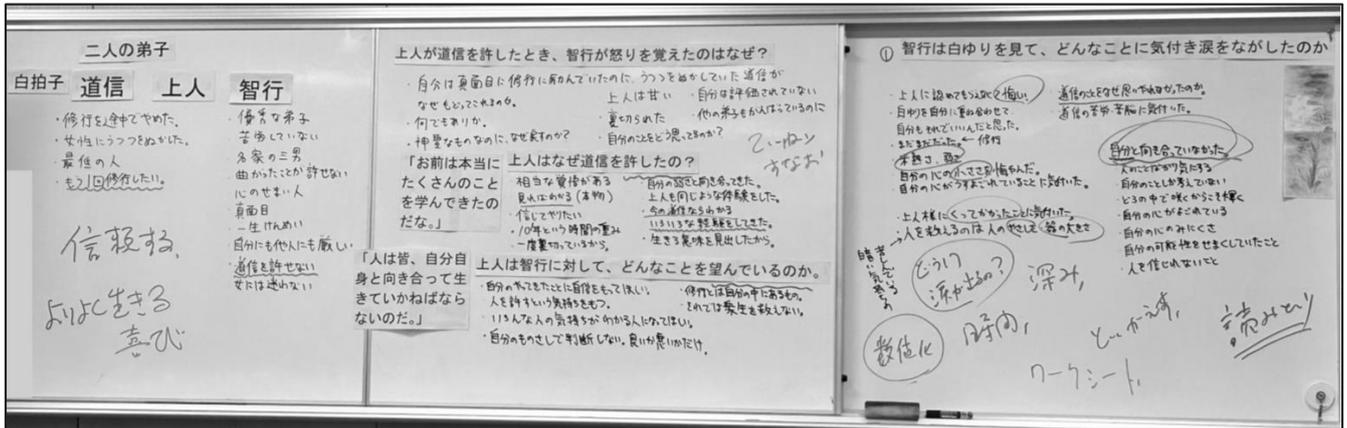


図2 本時の板書

#### 4-3 生徒のワークシートの記述内容を分析

##### 4-3-1 内容項目の分類

生徒のワークシートの記述内容を内容項目ごとに分類する（表2）と、D-(22)「よりよく生きる喜び」以外の内容項目に関する記述が多いことがわかる。特に、B-(9)「相互理解、寛容」の記述が多く、記述全体の約4割を占めている。その要因としては、「二人の弟子」という教材の特性と、B-(9)「相互理解、寛容」の中に、「それぞれの個性や立場を尊重」や「自らを高めていくこと」など、D-(22)「よりよく生きる喜び」とも被る内容が多く含まれていることが考えられる。

表2 内容項目による分類

内容項目	生徒のワークシートの記述内容	人数
自主、自律、自由と責任 (A-1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の芯を曲げずに強く生きることが大切とわかった。</li> <li>自分の正しいと思うことをやりぬこう。</li> <li>自分の意思を定められるようにしたい。</li> </ul>	9人
向上心、個性の伸長 (A-3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分と向き合う事の大切さが分かった。</li> <li>自分が怒っているときに自分を客観視することが大切。</li> <li>社会に出て過ちを犯して気づいてから努力するのも大切だが、小さい時からずっと努力をし続けることは大切。</li> <li>どんな環境においても自分自身の立場を見失わずに目標に向かって努力していきたい。</li> <li>人と自分を比べるのではなく、自分がどう成長しているかが大事。</li> <li>一人でも個性や魅力を発揮できるようになりたい。</li> </ul>	26人

<p>相互理解、寛容 (B-9)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分と異なる者との出会いや考えから、新しく学ぶことができる。</li> <li>・これからは自分の気持ちを少しずつみんなに伝えたい。</li> <li>・なんでも完璧を目指すのではなく、なにかできないことがあっても心を広くして、仲間と関わっていききたい。</li> <li>・智行は視界が狭くなってしまっているのではないか。</li> <li>・自分だけががんばっていると思っていても周りの人も知らないところでがんばっているのだろうと思うので、周りの人と認め合って生活していきたい。</li> <li>・智行は智行でいいけど、道信にも良いところはある。</li> <li>・自分の正しいと思うことだけを信じるのではなく、時には批判的になり、他の人の考えや意見（多面的に）も大切にすべき。</li> <li>・白いゆりを見て泣けている時点で、智行の心はきれいではないか。私も花を見て泣くことができるくらい心がきれいでありたい。</li> <li>・やるべきこととやりたいことのバランスをしっかりとることが重要。</li> <li>・一度道信もしたように立ち止まって、立ち尽くして自分を振り返るということは大事だし、そこから友人や周りの人に寛容になれる。</li> <li>・結果だけに焦点を当てるのではなく、結果に埋もれてしまった感情、意志にも目を向けることが大切。</li> </ul>	<p>43 人</p>
<p>思いやり、感謝 (B-7)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道信のような経験をしたことがなくとも、道信のような人に寄り添えるようになりたい。</li> <li>・相手の気持ちになって考えるということも重要。</li> </ul>	<p>2 人</p>
<p>友情・信頼 (B-8)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちが辛そうだったら、励ます、なぐさめるなど、友だちとしてできることをしていきたい。</li> <li>・誰かに自分の気持ちを相談することで少しは楽になれる。</li> <li>・一人で輝くことは難しく、誰かの協力や支え合うことで自分自身という個性や人を最大限表すことができる。</li> </ul>	<p>7 人</p>
<p>遵法精神、公德心 (C-12)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道信のように別の道でいくら学んできても、その道から外れた人にはそれなりの処罰を与えないと、その道で真剣に学んできた人には失礼。</li> </ul>	<p>1 人</p>
<p>生命の尊さ (D-19)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「良心」よりも“生きるため”が何より大事。</li> </ul>	<p>1 人</p>
<p>感動、畏敬の念 (D-21)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然のものの力はすごい。</li> <li>・白ゆりの小さな生命の美しさや力強さに感動した。</li> </ul>	<p>2 人</p>
<p>よりよく生きる喜び (D-22)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去にしてしまった悪いことが全て許されるわけではないけど、改心して正しい道にもどろうとする道信の姿勢がすごい。何か失敗しても、それを活かして改善したい。</li> <li>・道信から、一度失敗してもやり直せることを学んだ。</li> <li>・人として本当の姿を失ってはならない。</li> <li>・道信のように道を外れてしまうことがあっても懸命に努力して立派な人間になりたい。</li> </ul>	<p>20 人</p>

#### 4-3-2 テキストマイニングによる解析

生徒のワークシートの記述内容をテキストマイニングで解析した。ワードクラウド（図 3）と単語出現頻度（表 3）による分析では、「学ぶ」・「やり直せる」・「向き合う」・「関わる」・「目指す」・「信じる」などポジティブな言葉が多く出現したことがわかる。本授業のねらいである内容項目 D-(22)「よりよく生きる喜び」にある程度迫れたのではないかと考える。

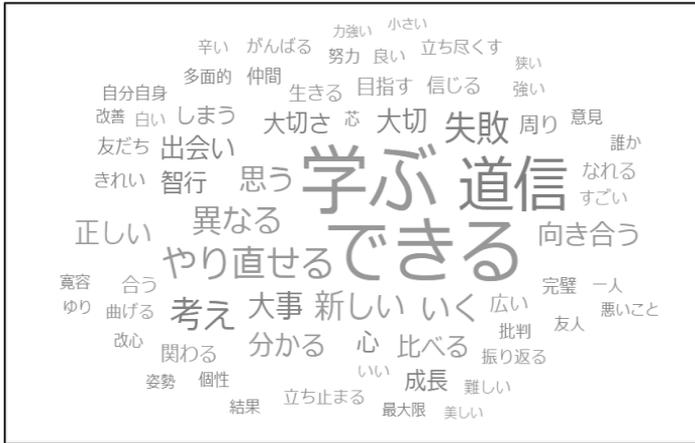


図 3 ワードクラウドによる分析図

表 3 単語出現頻度

動詞	スコア	出現頻度
学ぶ	33.18	30
できる	1.06	29
やり直せる	56.92	15
異なる	19.50	13
いく	0.33	13
思う	0.08	12
向き合う	12.34	11
分かる	0.46	11
比べる	2.64	10
しまう	0.08	7
関わる	1.11	6
目指す	0.90	6
信じる	0.38	5
なれる	0.27	5
合う	0.21	5

#### 4-4 道徳的価値の理解を深められるカリキュラム・マネジメント

本カリキュラム（図 4）を策定する上で、留意した点は次の 3 点である。

##### 4-4-1 中核となる学習活動の設定と関連づけ

中学生の時期は、人生に関わる様々な問題について関心を持ち始める時期である。同時に自分自身の人生について考えを巡らせ、いかによりよく生きるかを模索し始める時期でもある。このように、自身の生き方について、学校教育において特に大きく関わるのは道徳科であると考え、「二人の弟子」（出典：「私たちの道徳 中学校」 文部科学省）の授業を本カリキュラムの中核とすることとした。

その上で、広い視野から多面的・多角的に道徳的価値観について考えを深めることができるよう、下記のように特別活動（討論学校、修学旅行、体育大会、学芸会、音楽会、遠足）との有機的な関連付けに留意することとした。

##### 4-4-2 体験的活動の充実と道徳科との往還

平成 8 年の中央教育審議会答申をきっかけに、平成 13 年に学校教育法の改正が行われ、教育指導を行うにあたっては、体験的な学習活動の充実と努めることとされた。体験活動を通して、豊かな人間性、自ら学び、自ら考える力などの生きる力の基盤を育み、子どもの成長の糧となる役割が期待されている。道徳教育における指導の多様な展開の重要性は現行の学習指導要領にも謳われており、体験的活動の中で感じたことや考えたことを道徳科の授業に生かすことで、より深い学びが実現できるようにすることとした。

##### 4-4-3 保護者への周知と対応

道徳教育を推進していく上で、保護者の協力を得ることは大変重要である。特に、生徒にとって保護者は最も身近な大人であり、生き方について相談できる相手となる。そのため、保護者に対しては、道徳通信、学年通信、学校ホームページなどで学習内容と生徒の様子を積極的に発信するとともに、懇談会など保護者と対面する際には、情報共有に努めた。

# 仲間との対話を大切にする学校教育の展開

—自分の意見・意思を率直に表明し、よりよい学級集団を構築していく—

## 毎日の授業

「主体的・対話的で深い学び」の実践。どの教科にも全力で取り組む。自分たちで授業をつくる。

## 討論学校

「正義とは何か?」・「本当に大切なものとは何か?」



## 修学旅行

班でのオリエンテーリング（ウォークラリー）・テーマ学習、  
毎晩つづく生徒の自治的な話し合いの場「夕礼（せきれい）」



- ・ 言葉の大切さを再確認することが出来た。
- ・ 今後はこの修学旅行で学んだことを意識し、もっと話し合いの時は発言する、人をもっともっと信頼することが大切であると思った。
- ・ 空気がすごく重くてしんどい時があったけど、腹を割って話す機会でもあった。今後は、自分の選択や決断を曖昧にせず生きたいと思った。

## 附中三大行事（体育大会・学芸会・音楽会）

「この行事で得たいものは何か?」・「私たちの目標は何か?」



## 京都遠足

卒業までの最後の校外学習、「今までにできなかった課題は何か?」課題を決めて、班で取り組む。

## 特別の教科 道徳「二人の弟子」

D-(22) [人間の気高さ] 人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることに喜びを見いだすこと。

図4 他の教育活動との関連

## 5 おわりに

中学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」に「道徳性とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性」と記述されていることから、内容項目 D-(22) は道徳性そのものをテーマとして掲げていると解釈することができる。また、内容項目 D-(22) をねらいとして道徳科授業を行ったときに、生徒のワークシートから幾つかの内容項目に関する記述が見られた（表 2）ことから、内容項目 D-(22) には様々な道徳的価値が含まれていると考えることもできる。

現場教員は、内容項目 D-(22) をねらいとする道徳科授業に臨んだとき、「人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることには喜びを見いだすこと」という文言通りの発言や記述を生徒に求めてしまいがちである。しかし、先述したことから、内容項目 D-(22) をねらいにおいた道徳科授業では、生徒が様々な道徳的価値を表出することを積極的に認め、肯定的に高く評価していくという意識を現場教員が持つことが大切であると考えられる。そして、この意識変革が、D-(22) をテーマにした道徳科授業実践の敷居を低くする一助になるのではないだろうか。道徳科授業のさらなる充実・発展のために、これからも道徳科の内容項目についての理解を深めていきたい。

## 6 参考文献

- 1) 押谷・柳沼（2014）「道徳の時代をつくる！」教育出版
- 2) 文部科学省（2017）「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」教育出版
- 3) 日本キャリア教育学会（2008）「キャリア教育概説」東洋館出版
- 4) 今木重行・今澤宏太（2022）「将来の生き方を考えさせる道徳教育—道徳・総合・特活のカリキュラム・マネジメント—」『道徳教育学論集』大阪教育大学道徳教育学分野（20）、1-18.
- 5) 文部科学省（2016）道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議『「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）』
- 6) 大阪教育大学附属平野小学校（2017）「平成 28 年度研究開発実施報告書（第 1 年次）【別紙資料】」
- 7) 大阪教育大学附属平野小学校（2018）「平成 29 年度研究開発実施報告書（第 2 年次）【別紙資料】」
- 8) 「考え、議論する道徳」を実現する会（2017）『「考え、議論する道徳」を実現する！』図書文化
- 9) 寺西克倫（2022）．「自己の生き方を深め、未来への見通しを持つ道徳科の授業づくり」『道徳教育学論集』大阪教育大学道徳教育学分野（20）、61-74.





## The Way of Teaching in Moral Materials with the Content Item "The Joy of Living Better" for Moral education at Junior High Schools

— From the Lesson Practice of Two Disciples —

SHINOHARA Takao

**Abstract:** I designed a moral education class on content item D-(22) "The Joy of Living Better" through curriculum management with a school excursion to cultivate an attitude in which students try to find the good in everyone as human beings. The material "The Two Disciples" is a long story that is difficult for junior high school students to understand deeply. However, I thought that students would be able to approach the aim of the lesson by exploring the characters' feelings and their motives, and I put this into practice. On the other hand, because this theme is magnificent and difficult to create questions to approach the objective, teachers tend to avoid teaching moral education classes with content item D-(22). Therefore, in this paper, I report on the lesson practice of teaching materials on this theme, and suggest a way to lower the barrier to teaching classes on this theme.

**Key Words:** Moral education classes, The joy of living better, D-(22), Two disciples